

小泉八雲とセツの略年表

西暦	和 暦	事 柄	備 考
1890	明治23	4月、ハーンは横浜に到着【来日】40歳 7月、アメリカでの知人服部一三(文部省普通学務局長)の斡旋により、9月、島根県尋常中学校・師範学校の英語教師として松江に赴任。 9月13日、ハーンは汽船で莊原①にきて、人力車で出雲大社参詣・滞在(9月13-15日)。 9月14日、外国人として初めて出雲大社の昇殿。9月15日出雲大社宝物殿、稻佐の浜へ。	8月30日松江着 島根県尋常中学校(現・松江北高等学校)、島根県尋常師範学校(現・島根大学) 通訳の真鍋晃青年を同行。
1891	明治24	1月、小泉セツと結婚。 7月26日、ハーンは再び杵築訪問(* 汽船に乗り遅れて、陸路人力車で宍道・莊原を経て杵築へ、稻佐の浜の「養神館」着)。 28日には、夫人セツも呼ばれて杵築で合流。 29日ハーンと西田は出雲大社に昇殿(**) 8月7日、ハーン・セツ・西田3人で日御碕神社参拝。(注記1) 8月10日朝、3人で大社を出発し、莊原の「辰巳屋」で昼食、莊原から午後4時の汽船②で松江に午後7時帰着。 8月14日、夫妻は、鳥取県東伯郡琴浦町などを訪問(新婚旅行)滞在。8月30日松江に帰着。* 2004(平成16年)9月、東伯町と赤碕町が合併して琴浦町。 11月15日朝、大橋西棧橋から汽船で宍道の舟付場を経て、人力車で中国山脈を越えて広島県、呉から汽船で門司へ、そして汽車で熊本へ到着。 【松江滞在日数:443日(1年3カ月)】 11月19日、熊本県第五高等中学校に赴任。(以下、注記2のとおり)	西田千太郎の仲人 松江中学の西田千太郎教頭同行。 * 松江発第1便(平田行き)、第2便庄原行きの汽船にも乗り遅れた。前日は白湯天満宮祭礼で26日は車夫を探すのに苦労した。 ** 8月4日、「ヘルン氏外2名豊年手踊り見物に來り」(出雲大社教祖霊日誌に記載)。この時に、西田、セツも同行は明らか。この時に、大神宮にて結婚を挙行..とのちに八雲記載。 琴浦町八橋海岸には、「小泉八雲・セツ來訪記念碑」が建立(2004(平成16)3月)。 八雲とセツ、その家族(セツの養祖父稲垣万右衛門、養父母:稲垣金十郎・妻トミ)を伴う。
1892	明治25	7月から2カ月間、ハーンとセツは、関西～山陰(境港から隠岐へは船便)を大旅行。	莊原港には寄らず(境港→日本海經由し下関へ帰港、鉄道便で熊本へ)。
1893	明治26	11月17日、ハーンとセツの長男、一雄が誕生。	

1894	明治27	6月、突然五高を退職、明治27年10月熊本を発つ。神戸市に転居。	英字新聞「ジャパクロニクル社」(論説記者)に就職。
1896	明治29	2月10日、ハーンは日本国籍を得て、小泉家に入籍、日本に帰化し「小泉八雲」と名乗る。 8月11日、八雲の家族と西田同行し、汽船で 莊原③ に着き、杵築「いなばや旅館」に宿泊。 8月12日には、稲佐の浜「養神館」に泊まる。 8月18日朝、風雨の中、莊原に着いたが、 暴風雨で汽船が出航できず一泊(辰巳屋) 。 翌朝19日朝3時の汽船で 莊原③ を出発し5時に松江に帰着。8月20日、松江を離れた。	松江藩家臣であった小泉弥右衛門湊・母チエの娘「小泉セツ(本名:節子)」と正式に結婚。
1896	明治29	9月、東京帝国大学文科大学講師。	
1903	明治36	東京帝国大学退職(後任に夏目漱石)。	
1904	明治37	3月、早稲田大学文学部講師に就任。 9月26日心臓発作(狭心症)で逝去(54歳)	戒名:正覚院殿浄華八雲居士
1932	昭和 7	2月18日セツ死去(脳溢血)(64歳)	八雲の墓の隣りに眠る。

(註記1) 小泉家と千家家・日御碕神社との関係:

- ① セツの曾祖父で歌人であった「小泉真種」が、千家俊信の娘と結ばれていた。
- ② 日御碕神社の宮司を務める「小野男爵家」は、セツの実母方の従姉である**隣子**(せいこ:金篇に嘉と書く)の嫁ぎ先であった。

(註記2) 熊本五高:

- ① 1892(明治25年)5月で、最初の雇用契約が切れ、継続手続を行うも、熊本五高の存続問題で難航。8月になって、1年間雇用継続の認可が下りる。
- ② その間7月から、関西と島根・隠岐へ執筆取材に出かけている。9月中旬に帰ってきている。
- ③ 1893(明治26年)5月、さらにもう1年の雇用契約が決定した。
1893(明治26年)11月、長男の一雄(洋名レオポルド)が誕生。(その後、三男一女となる)
- ④ 1894(明治27年)6月、突然五高を退職、明治27年10月熊本を発つ。神戸に転居。
神戸市のジャパクロニクル社(論説記者)に就職。
- ⑤ 1896(明治29年)9月、東京帝国大学文科大学の英文学講師に就職。
- ⑥ 1903(明治36年)、東京帝国大学退職(後任に夏目漱石)。
- ⑦ 1904(明治37年)3月、早稲田大学文学部講師に就任。同年9月26日、心臓発作(狭心症)で逝去(54歳)。セツは36歳。
- ⑧ 1932(昭和7年)2月18日、二度目の脳溢血によりセツ逝去(64歳)。八雲の墓隣りに眠る(東京雑司ヶ谷霊園)。